

佳作

負の連鎖を止めるのは、自分たちだ

六本木中学校 北島 三幾子

クジラの島の少女。この話を知っているだろうか。ニュージーランドのマオリ族の話だ。英語の時間に、この島のドキュメンタリーを見た。想像では、もっと自然と共存して今まで生きてきた、と想像していた。でも、想像を絶する映像が目の前を流れていった。

マオリ族という人間たちの降り立った島は、未開の地、つまり、自然豊かな場所だった。今は絶滅してしまった動物がCGで加工されて出てきた。人間が狩りすぎてしまったから、CGで加工せざるを得なかったのだ。人間が自然を壊してしまったわけだ。

煙草も自然を壊してしまう。今年の十月から煙草の値段が上がった。値上がりの一日前、何カートンもの煙草を大量に買う人が、たかが三分程度の映像の中にたくさんいた。煙草から出る煙だって、人間にも毒なのだから、地球にだって毒だ。私は、むしろもっと値上がりして喫煙者が減ればいいのに、と思う。

そんな煙草も森林伐採の原因の小さな一つだ。煙草をくるんでいる紙。森林を伐採して紙を作っている。そのたびに、オラウータンのような森に住む動物は、森から追い出されてしまう。そして、途方に暮れ、ついに絶滅への道を

たどり始めてしまうのだ。

人間が食料として狩り、絶滅してしまった動物。人間の「便利」のために絶滅してしまった動物。結局は、人間が絶滅させてしまったのだ。同じ動物なのに。北極の氷が溶け、行き場をなくしてしまい、氷の上に浮かんでいることしかできないホッキョクグマがテレビの中にいた。これだって人間が先を考えずに、二酸化炭素を排出してしまい、地球の温度を上げてしまったからだ。ホッキョクグマは寒いところでは生きられない。いくら氷の大地が広がっていても、この調子では何年後かに溶けてなくなってしまうだろう。

絶滅とは逆に、地球温暖化のせいで増えてしまう生き物だっている。沖縄の海に繁殖してしまったオニヒトデという生き物だ。海水の温度が上がり、異常繁殖してしまったのだ。オニヒトデが繁殖してしまい、サンゴが死んでしまったり、海に住んでいる魚が死んでしまったりする。まさに「負の連鎖」だ。今、オニヒトデの駆除を地元の人たちのボランティアでやっているらしい。でも、所詮は人間の力だ。時間がかかって、その間に生き物が絶滅してしまうかもしれない。今、直接自分でできることはおそらくない。でも、もう少し年をとれば、ボランティアで異常繁殖してしまった生き物の駆除や、嫌いな勉強をたくさんして、エコで「便利」な機械や世の中を作りたい。いや、自分たちの世代で、この「負の連鎖」を止めなくてはならないのだ。それは、絶滅の道をたどってしまった動物のために。何より「負の連鎖」を作ってしまった人のために。そして、自分の住んでいる地球のために。